

8/3 一色地区 平成29年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
1	海岸堤防の耐震化 〔一色西部〕	<p>【質問】</p> <p>市が平成28年度に実施した市政世論調査では「南海トラフ地震に関心があるか」との問いに対し、約90パーセントの方が「関心がある」と回答されています。</p> <p>海拔ゼロメートル地帯が広がる一色地区では、多くの海岸堤防を愛知県が管理していると聞いておりますが、今後、どのような予算と手法で整備を進めていくのですか。</p> <p>また、市は、積極的に事業を推し進めるため、愛知県や国に対してどのような働きかけを行うのですか。</p>	<p>愛知県に確認をしましたところ、次のような回答がありました。</p> <p>海岸堤防の地震津波対策として、平成26年に「第3次あいち地震対策アクションプラン」を策定し、この中で「西尾海岸中根地区」「一色漁港海岸」「衣浦港海岸平坂地区」などを耐震対策箇所位置づけ、計画的に対策を進めているところです。</p> <p>特に、西尾地区沿岸部のゼロメートル地帯においては、地震直後に浸水が始まり、住民の避難時間の確保が困難な区域があることから、優先的に対策を進めております。具体的に今年度は「西尾海岸中根地区」「一色漁港海岸」「一色海岸細川地区」「平坂防潮樋門」の耐震対策を交付金事業で実施します。</p> <p>今後も、地震津波対策について、このアクションプランに基づき対策を進めてまいります。</p> <p>管理者の愛知県からは、このような回答がありましたが、市といたしましても、市長自ら愛知県に対しまして事業推進のための要望活動を行ってまいります。</p> <p>※お問合せ先 西三河建設事務所河川港湾整備課 事業管理担当 0564-27-2751</p>	河川港湾課
2	くるりんバス停留所の準備 〔一色西部〕	<p>【質問】</p> <p>一色地区でくるりんバスが10月から運行されるそうですが、停留所となる場所の準備はどのようになっていますか。</p>	<p>一色地区におかれましては、町内会長や民生委員・児童委員の皆さまにより、地区内の公共交通を考えるための協議会を設立して市へコミュニティバス運行の提案をしていただきました。運行ルートや停留所の場所等を地区の皆さまで決定していただきまして、名称は「くるりんバス」ではなく、一色地区のオリジナルを募集して親しみのある地域交通として10月1日から運行を開始する予定です。</p> <p>ご質問のありました停留所の準備ですが、市と地域で役割を分担することとなっております。警察や道路管理者への申請、標識の設置は市で行い、停留所隣接宅への説明は地区で行うという官民協働で準備を進めてまいりますので、引き続き、よろしく願いいたします。</p>	地域支援協働課
3	小中学校の統廃合 〔一色南部〕	<p>【要望】</p> <p>近年、少子高齢化に伴い、一色南部小校区においても、児童・生徒の減少が著しい状況となっています。町内会においても、子ども会で単独チームが編成できないほどの状況もみられます。これからも児童・生徒の減少は続くものと思われ、今後は小中学校の統廃合や校区の見直しが必要不可欠になると考えます。</p> <p>しかし、各小中学校は地域コミュニティの核となる存在であり、スクールコミュニティのためにも、各地区には小学校が必要です。その意味で一色南部小学校の存続を希望します。</p> <p>教育長は「小中学校の統廃合をせずに、小規模校の良さを生かす」と議会等で答弁されていますが、市としてその見通しと今後の計画をどのように考えていますか。</p>	<p>文部科学省では、学校規模の適正化に関する検討事項の中で、小学校では、クラス同士が切磋琢磨する教育活動や社会性やコミュニケーション能力を高めるために、12学級から18学級を適正規模として示しています。</p> <p>また、一方で、小規模校であることで、一人一人に行き届いた教育が推進でき、地域との密接なつながりを生かした校外学習や体験学習の充実ができること等のメリットがあり、地域のコミュニティの核としての学校の存在を図るために市町村の判断を尊重するとしています。</p> <p>一色南部小学校の児童数は、減少傾向にありますが、今後5年間の入学予定者数を見る限り、現在と同程度の学級規模を維持できると見込んでいます。学校は、児童生徒の教育のための施設だけでなく、地域の核としての性格も持っています。小規模校においては、その良さを生かし、地域に開かれた教育を進めてまいります。</p> <p>したがって、現時点では、一色南部小学校を含めた市内の学校の統廃合は考えておりません。</p>	学校教育課

8/3 一色地区 平成29年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分〕

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課
4	旧名鉄三河一色駅跡地周辺の再開発 〔一色中部〕	【質問】 名鉄三河線の廃線敷き及び三河一色駅跡地の再開発はどのようになっていますか。市では用地買収をする用意はあるのですか。 また、民間が一部の用地を買収することは可能ですか。 今後どのようにしていく方針ですか。現状も含めて教えてください。	駅跡地を含めた三河線廃線敷地につきましては、市と名鉄とで長年協議してまいりました。 最終的に市が必要地として名鉄に提示しているものは、道路及び水路の用地として必要な103箇所であり、三河一色駅跡地では、南と北に接する道路2箇所だけとなっております。同駅跡地で他に市が取得や開発をする予定はありません。現在、名鉄が三河線廃線敷地の用地確定測量を行っており、今後市が必要としている箇所の取得に向けて用地の価格交渉等を行っていく予定です。 また、名鉄からは、市が必要としている箇所以外については民間への売却を検討するとの話もお聞きしておりますので、民間が買収する可能性もあるものと思われま。	企画政策課
5	一色地区における新たな産業廃棄物最終処分場計画 〔一色東部〕	【意見】 新たな産業廃棄物最終処分場計画に対して、市として反対の意見を出していただき、ありがたく思っています。 この計画に対しての市の考え、市からの情報などがあればお聞かせください。	南海トラフ巨大地震による津波浸水被害が想定されている本市沿岸部において、愛知県が平成26年5月に発表した被害想定では、海岸堤防は、75%が沈下、最大4mの津波が襲い、併せて、液状化の危険性が「極めて高い」とされています。 このような場所に、新たに巨大な産業廃棄物処分場が建設された場合、最終処分場の廃棄物や汚水が流出する危険が伴い、この先、数十年にもわたって常に危惧しなければなりません。 もし、廃棄物や汚水が三河湾に流出した場合には、本市だけの被害に留まらず、三河湾全体に拡散してしまい、取り返しのつかないこととなります。また、本市を代表する水産業や農業、そしてこれらに関連する加工業においても風評被害が発生することが考えられます。 海・川・山といった豊かな自然に支えられる西尾市や、豊かな海「三河湾」の環境を次世代に引き継いでいくため、今後も新たな産業廃棄物処分場の建設には反対をしております。 なお、現在までに正式な申請は出されていませんので、今後においても許可権者であります愛知県に対して、引き続き反対の要望を行ってまいります。	環境保全課
6	津波対策の一環としての一色地区への命山建設 〔一色東部〕	【意見】 一色地区は、山がなく最高地点でも海拔5～6メートルであり、南海トラフ地震では5～6メートルの津波が予想されていると思います。市の方針としては、徒歩で一色地区の最高地点に避難すると言われていますが、そのような方針であるため、西尾南部地域の予測死亡者数が数千人になるのではないのでしょうか。 一色地区で建設計画のある多機能型市営住宅は、1,000人程度の一時避難場所のようですが、本当に「市民の命が第一」と考えるならば、古川緑地左岸のレクリエーション施設の整備だけでなく「一色地区への命山の建設」が必要で、これは地区住民の最大の願いです。 市は、出来ない理由ばかり言っているのではなく、避難可能収容人数に、予算、工法、期間も含めて「どうしたら出来るのか」を考え、明確に情報を開示してください。	一色地区の皆さまと「自ら避難することの重要性」の徹底を図りつつ、要配慮者の避難方法や既存の津波一時待避所の活用を視野に入れながら、命山建設の必要性を検証してまいりたいと考えております。命山に関しましては、一色地区の皆さまのご意見をお聴きしながら進めてまいりますので、よろしくお願いたします。 現在、市が提示する命山の案はありませんが、命山の建設予算としましては多額なものとなりまして、先進市町の一例として、静岡県袋井市が300人収容可能な施設を約3億円で建設されていることを参考までにご紹介いたします。	危機管理課